



モデルコミュニティでのタウンウォッチング (バングラデシュ)

Town Watching in DRR Model Communities, Bangladesh

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこのSEEDSのロゴをかざすと簡単に寄付が頂けます。】

### Table of Contents Vol.59 (July, Aug. 2017)

- バングラデシュ：都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ミャンマー：国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト
- フィリピン：セブ州における学校の防災管理推進支援事業
- 日本：(1) 熊本地震被災者支援  
(2) 丹波市復興まちづくり協働事業  
(3) JICA 研修（総合防災行政）  
(4) 講師派遣
- 本部からのお知らせ
  
- Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas
- India: Project on Participatory Community-Based DRM
- Myanmar: MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
- Philippines: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province
- Japan: (1) Project on Support for the people affected by Kumamoto Earthquake  
(2) Joint Project with Tamba City on Community Development  
(3) JICA Training (Comprehensive Disaster Risk Reduction)  
(4) Dispatch of Lecturers
- Announcements from Headquarters



特定非営利活動法人 SEEDS Asia

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,  
Higashi Nada ku, Kobe, Japan  
神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



## バングラデシュ

### 【JICA 草の根技術協力事業：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

#### モデルコミュニティでのタウンウォッチング

6月14日に開催したモデルコミュニティ防災リーダー向けリーダー研修に続き、研修2日目として各コミュニティにてタウンウォッチングを実施しました。タウンウォッチングでは、各モデルコミュニティの防災リーダーが地域内を歩いてまわり、危険箇所と安全な場所、役立つもの、地域で大切にしたいものを地図に記録しました。地域の地図は隅々まで頭に入っているのに歩いて見る必要はないと言っていたメンバーも、災害を想定して歩いたことはこれまでなかったため、新しい気づきがあったと驚きと喜びの感想を話してくれました。各コミュニティは、タウンウォッチングでの発見を基に、より災害に強いコミュニティにするために何が必要で自分たちに何ができるかを話し合い、年間の防災アクションプランを策定しました。



モデルコミュニティでのタウンウォッチング

#### メディアフェローシップと編集長による防災ラウンドテーブル

ダッカでの事業では、より多くの住民に防災の意義を伝え意識啓発を行うため、マスメディアを巻き込んだ活動にも取り組んでいます。7月にはジャーナリスト向けフェローシッププログラムを立ち上げ、バングラデシュを代表する新聞、テレビ、通信社各社より10名のフェローを選定しました。フェロージャーナリストは、コミュニティ防災をはじめ、学校や病院での備え、建築基準、各種都市災害、災害時の事業継続計画、アーバンボランティアなど、防災に関わる各々のトピックを掘り下げて記事にし、10月13日の国際防災の日に向けてそれぞれの新聞に掲載します。

意義のある継続的な報道が行われるためには、現場のジャーナリストだけではなく、記事の選定や優先付けを行う編集長の理解も不可欠です。そこで、7月20日にバングラデシュを代表する報道機関の編集長らを招き、防災報道の主流化についてのラウンドテーブルを開催しました。SEEDS Asiaからは日本の災害報道について紹介し、正確な情報の提供、災害報道に防災の観点を取り入れることや、一時的なセンセーショナルな災害記事に終わらせるのではなく継続的な報道を行っていくことの重要性が話し合われました。イベントの最後には、ニュースルームに新しく災害と防災担当記者をおくことや、政策に防災の視点を盛り込むよう働きかける役割をメディアが担うこと等の提言がまとめられました。



編集長による防災ラウンドテーブル



## インド

### 【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

本事業では、防災教育／気候変動教育の拠点となる「クライメイトスクール（CS）」5校とCSが位置する5地区に地域防災協議会を設置し、地域防災のモデルづくりを促進しています。2017年7月、8月は下記の活動を行いました。

#### 1) 「まちあるき研修」指導法の研修

「まちあるき研修」とは、地域の災害リスクを認識するためのもので、学校や近所での過去の災害を知ること、豪雨による洪水時の避難場所を認識すること、災害リスクの削減のためにできることを考え、実行に移すことを目的としています。昨年度7月にSEEDS Asiaが実施した研修を受講したCS教員が、今年度は指導者となり、周辺校3校から各5名の教員に対して研修を実施するための指導研修を行っています。

2017年7月21日に、CSの一つであるシュリ アグラセン カンニヤ インター女子校において、また、7月31日には、同じくCSのアーリヤン国際校にて、同研修の指導法研修を実施しました。新学期が始まり、特に多忙な時期を迎えた学校ですが、どの学校も校長先生が研修の重要性を理解してくださり、授業の合間を縫って先生方が研修に参加しました。

受講した先生からは、「生徒たちは、きっと興奮して研修に参加すると思う。早く研修を実施したい」、「生徒だけでなく、昨年洪水被害にあった村人たちにも必要な知識だ。田植えの始まる前の来年2月に研修を行うのが効果的だ」といった積極的な声を聴くことができました。今後は、受講した教員が自校の生徒60名に対して同研修を実践することになります。



「まちあるき研修」の様子

## 2) 『ブラハリ』編集委員会の開催

7月16日、CS5校の各校代表教員が集まり、事業の活動に関する意見や、今後の活動に関する詳細を話し合う会議を開きました。特に、バナナシ子ども防災・気候新聞『ブラハリ』のウェブサイト版を製作するにあたり、これらCS5校がアイデアを持ち寄り、議論を重ね、協力し、お互い納得する内容のウェブサイトを立てることが求められています。今回はその議論の初回でしたが、どの学校も積極的に意見を出し合い、大変心強いスタートを切ることができました。

## 3) 気候・防災教材の作成に着手

バナラス・ヒンドゥー大学が気候を、SEEDS Asiaが防災を担当し、教材を作成しています。防災教材は、バナナシ市の防災30年史、ヒンドゥー教修行僧によるガンジス川観察と天気日記の3構成からなります。バナナシ市の防災30年史に関連し、職員が6月と7月の2か月間をかけて、バナナシ市に点在する図書館、資料館、新聞社に赴き、ヒンディー語と英語の新聞記事を閲覧し、情報収集しました。



新聞記事を閲覧する様子



## ミャンマー

### 【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

#### プロジェクトの完了報告

2017年7月末を以て、米国開発庁(USAID)支援による「国家防災マネジメント・トレーニングセンターに向けた能力強化・共同プロジェクト」が無事完了致しました。本プロジェクトは、6団体 (UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED/SEEDS Asia) の実施団体と、5団体の技術協力団体 (UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA) で構成されたコンソーシアムによる共同事業で、ミャンマーにおける災害管理能力の向上を目的に実施されました。本プロジェクトにおいて、SEEDS Asiaはコンソーシアムのメンバー、カウンターパートである社会福祉救済復興省、ヤンゴン工科大学やダゴン大学と協力し、防災に関わる研究と、啓発活動の支援活動を展開しました。

プロジェクトの成果を共有し、今後に生かすべく、6月27日にヒンタダ地区にある国家防災マネジメント・トレーニングセンターで開催された最終ワークショップおよび7月20日-21日にヤンゴンで開催された振り返りのワークショップにて、ヤンゴン事務所のスタッフが発表しました。本プロジェクトの実施にあたり、ご協力・ご支援いただいた皆様に心からお礼を申し上げます。



最終ワークショップの様子



## フィリピン (セブ)

### 【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における学校の防災管理推進支援事業】

#### ナガ市との了解覚書締結、市長とのミーティング

8月2日、セブ州ナガ市庁舎にて、学校防災管理推進に向けたパートナーシップを深める目的で、事業地の一つである同市および教育省ナガ市地区事務所と、了解覚書締結式を行いました。ナガ市を代表し市長クリスティン・チオング氏、教育省ナガ市地区事務所を代表し所長セネン・ポーリン氏が覚書に調印しました。締結式には、ナガ市防災管理局職員カルメリノ・クルス氏と、教育省ナガ市地区事務所の防災管理担当コンラド・デジャーミ氏、同市でパイロット校として学校防災管理を進めるウリング小学校の校長ジェニファー・アセディオ氏も参加しました。市長は、防災管理局職員に同事業に積極的に参加するよう指示し、協力を約束しました。また、ナガ市内の他の学校にも良い結果を波及したいとの発言がありました。ナガ市を筆頭に、6月28日にセブ市長、7月21日にダアンバンタヤン町長、そして8月3日にはカルカル市長とのミーティングを行いました。これらの市町と了解覚書締結を進め、教育行政と防災行政の連携を促していく予定です。



ナガ市との了解覚書締結式

ベースライン調査（学校災害回復力評価）

7月3日から27日にかけて、事業実施において参考とする基礎データを集めるため、学校災害回復力評価というベースライン調査を行いました。セブ州にある10のパイロット地域から選出されたパイロット校を含む各3校、計30校に対して実施しました。この調査では、学校長と学校防災担当者にインタビューを行い、物理的条件、人的資源、組織関連、外部との関係、自然条件の5部門について学校の災害からの回復力を数値化しました。この調査結果に基づき、各地域や学校の課題を克服し、長所を伸ばす取組を実施していきます。

先行事業の成果、フィリピン防災強化月間イベント

7月はフィリピンの防災強化月間です。7月21日、先行事業である学校防災教育プロジェクトのモデル校だったダアンバンタヤン中央小学校から、防災強化月間の一環として開催されたイベントに招待されました。幼稚園から小学校6年生までの児童が、防災にまつわる合唱、バケツリレー、エッセイ、料理、障害物競走、スローガン作り、ポスター作りなどのアクティビティに参加しました。また8月4日には、教育省ラブラブ市地区事務所とラブラブ市行政が共同で開催した防災強化月間イベントにも招待されました。同市の10校区より、小学校から高校までの児童生徒など総勢750名が参加し、SEEDS Asiaが先行事業で導入した、21の防災教育アクティビティに基づいたコンテストが行われました。終日の開催で、参加者に災害への備えの重要性を訴えるイベントとなりました。



ラブラブ市の防災月間イベント

行う「災害ボランティアセンター」から、復興に重点をおいた「生活復興支援ボランティアセンター」に、10月には宇城市からの委託で「地域支え合いセンター」を設置しました。その再編に際し、社会福祉協議会職員とともに、センターの活動方針や事業計画、役割分担等の体制構築のための協議を重ね、必要な手順を整えたり、それぞれのフェーズの被災者ニーズに対応できるよう、随時、事業計画を見直しながらセンターの運営を支援しました。また、実際の被災者支援として、戸別訪問で個々の状況を把握し、必要に応じて適切な機関につなぐ「個別支援」と、住民同士で支え合う関係構築を促進するために、お茶会などを通じた「コミュニティ支援」実施への支援を行いました。



仮設住宅の入居者による花壇づくり

さらに、気仙沼市で復興支援活動を実践している経験者を派遣し、支援活動の現場で、初めての経験で疑問や不安を抱える相談員にOJT方式でノウハウを伝えました。その場で配慮すべきこと、気を付けるべきことを伝授されたり、今後の見通しについて話を聞けたり、さらに相談員自身のメンタルヘルスについても話し合えたりしたことなど、相談員からは大変有益だったとの声があがりました。

また、社会福祉協議会による福祉的な支援と、行政による復興事業や保健支援、NPO等の活動等との連携を目的とした「生活復興支援連携会議」の定期的な開催に協力したり、宇城市内の中学校や熊本大学と協力してボランティアを派遣したりなど、様々なネットワーク構築の一助を担いました。

熊本地震被災者支援活動において、多方面から多大なる協力を賜ったことに深謝申し上げるとともに、今後も熊本地震被災者の方々への引き続きのご支援をお願い申し上げます。

日本

(1)【赤い羽根共同募金：熊本地震被災者支援】

プロジェクトの完了報告

2016年4月の熊本地震発災後、SEEDS Asiaは現地調査を経て、約700世帯の被災者が住み慣れた家を離れ、生活再建を余儀なくされた宇城市において、被災者支援に取り組む宇城市社会福祉協議会への支援活動を実施しました。当初、2017年3月までの予定でしたが、7月まで延長して行った活動の全容をご報告します。

まず、宇城市社会福祉協議会が設置する被災者支援のためのセンターの体制構築の支援から始まりました。同協議会では、5月まで緊急的な支援を



地域支え合いセンター職員と

## (2)【丹波市復興まちづくり協働事業】

### 市島中学校での防災講演会

7月7日、丹波市立市島中学校の全生徒を対象に、防災に関する講演を行いました。テーマは「中学生にできる防災」で、高齢化が進む地域では、災害発生時に自助・共助の力を発揮できるのは中学生であるということを中心に話をしました。

講演の中では、10歳の時に旅行先でスマトラ沖大地震による津波に遭遇したイギリス人の少女について紹介し、「子どもでも、災害についての正しい知識を持って、周りを巻き込み避難行動をとることによって多くの人の命を守ることができる」ということを説明しました。

暑い中、集中して話を聞いてくれた生徒たちから頂いた感想には、「丹波市には地震が絶対起きないと思っていたけど、可能性が低いだけだとわかったので備えておきたい」や「イギリス人の少女のように、災害が起きたら、私も周囲に避難を呼びかけたりお年寄りを助けたりできるようにしておきたい」という素晴らしいものがたくさんありました。

### ビデオ防災教育教材作成に向けた話し合い

7月13日と8月23日、丹波市の研究指定校7校が集まり、ビデオ防災教育教材の案について話し合いました。

本事業では、1年次に2014年の豪雨災害の経験に基づいた紙媒体の防災教育教材「心つなぐ」を作成しました。2年次となる本年は、さらに動画を活用したビデオ教材を作成します。そのため、7校の研究指定校で『心つなぐ』を活用した授業に、こういう動画があったら役に立つ」という視点から、教材の案を考える時間を設けました。

小学校低学年と高学年、中学生を教えている各教員は、「地域の人たちが助け合ったというエピソードをインタビューした内容が欲しい」や、「地域を良くしようとしている人たちの話を動画で見れるようにして、ふるさとへの想いを深めて欲しい」など、貴重な意見を交換し合いました。

この話し合いの結果を具体的なシナリオに落とし込み、撮影に臨む予定です。



研究指定校による話し合い

### 復興イベント「和一処（わっしょい）」への参加

8月26日、丹波市市島町を襲った豪雨災害から3年を迎え、市が開催する復興イベントに参加しました。

午前中は「復興山歩き」に参加し、兵庫県下で最大級の砂防ダムを間近で見たり、災害に強い森林づくりに取り組んでおられる自治会の会長さんや、間伐材の活用を推進しているプロジェクトのお話を伺ったりしました。自治会長さんは、「木材価格の低下などにより長年森林が放置されてきたが、400年先を見据えて健康な森を残していきたい。そのためにもしも若手と一緒に、無理せず楽しく森林管理をできるような取組みを進めている」とおっしゃっていました。

午後には三ツ塚史跡公園の芝生広場で展示ブースを設け、ミニチュア模型を使って災害について説明したり、丹波市のキャラクター「ちーたん」のバッジづくりをしたりして、丹波の未来を担う子どもたちと交流しました。



災害のメカニズムについて説明する SEEDS Asia スタッフ

## (3)【JICA 課題別研修 総合防災行政 (A)】

2017年7月25日から8月25日、JICA 関西から委託を受け、課題別研修「総合防災行政 (A)」を実施しました。参加者はブラジルの連邦、州、市で防災行政に携わっている9名です。研修員は日本の国や地方自治体の役割、民間や住民との連携に関する講義を受け、ブラジルで深刻な問題となっている土砂災害対策や復興への取り組みを学ぶために、丹波、広島での視察を行いました。



内閣府での講義

研修員一同、より多くのことを自国の防災対策に反映させたいと、すべての講義で熱心に質問をしながら講義を受けている姿が印象的でした。また、日本が備えを重視していること、企業やNPOなどの民間組織でも意識の高い取り組みをしていることや住民の自助・共助の文化が浸透していることなど、様々な気づきと学びを得たとの意見が多数あがりました。さらに、

ブラジルの国から市レベルまでの防災担当者が1か月の間、ともに議論をしながら過ごした貴重な機会でもあり、帰国後もこのような行政機関の連携がさらに推進されることが期待できる研修となりました。



広島土砂災害被災地での砂防ダムの視察

#### (4) 【講師派遣】

SEEDS Asia では、全国の学校や地方自治体、企業などの民間組織・団体の講演会やイベント等、幅広い方々を対象に、講師を派遣しています。2017年7月—8月には以下の講師派遣を実施しました。

##### 熊本大学での講義（於：熊本県）

7月12日、熊本大学のボランティア論の授業において、SEEDS Asia スタッフがゲストスピーカーとして講義を行いました。「国際協力×防災×ボランティア」をテーマに、SEEDS Asia や熊本被災者支援の活動を紹介しました。受講した145名の学生からは「ボランティアという相当の覚悟をもってしないとイケないと思っていたけれども、身近なことからでいいと分かり、自分でもできそうだった」「復興支援において広い視野が必要なのことが分かった」「様々な国の話が聞けて、おもしろかった」などの感想が寄せられました。



講義の様子

SEEDS Asia では、講師派遣を行っています。防災に関わる内容から活動国の話等、講義から、ゲームや紙芝居などのアクティビティを取り入れた講座など、幅広い方々を対象に講演を行うことができますので、ご関心のある方は SEEDS Asia 事務局 講師派遣係 (rep@seedsasia.org) までお問い合わせ下さい。

#### 本部からのお知らせ

##### SEEDS Asia 事務局長が『防災をめぐる国際協力のあり方』へ寄稿

事務局長の中川裕子が、『防災をめぐる国際協力のあり方—グローバル・スタンダードと現場との間で—』（五百旗頭 真 監修、片山 裕 編著、ミネルバ書房、2017年7月30日発行）の第9章「アジアの防災教育」（167-184頁）を寄稿致しました。





Bangladesh

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

Town Watching in DRR Model Communities

SEEDS Asia conducted a town watching in each model community as a leader training day two. This follows the training day one held on June 14. DRR leaders from the model communities participated in these training sessions. In the town watching, DRR leaders walked around their areas and identified dangerous, safe, useful, and favorite places/things, and then marked each of them on a map. At the beginning some members said that there was no need to walk around because they knew each street very well. However, they later said that they were surprised and amazed to find points they did not notice so far as they had never walked on these streets in their everyday life with an intention as the above. Based on the experiences and findings at the town watching, each community discussed what are needed and what they can do to make their community stronger toward disasters, and made an annual DRR action plan.



Town Watching in a Model Community

Media Fellowship Program and News Managers' Round Table on DRR

In our community based DRR project in Dhaka, the activities involving mass media also plays an important part since mass media has a power to reach out to a number of general public and raise awareness of DRR. SEEDS Asia launched a media fellowship program in July and selected ten fellow journalists from each of Bangladesh's leading newspaper publishing companies, broadcasters, and news service agencies. They will spend two months to work on their own topic to write a report relating to DRR, which includes preparedness at schools/hospitals, building code regulations, various urban disasters, business continuity plan at disaster, urban volunteers, etc. The reports will be released on their respective newspapers/TV channels on around 13th October, the International Day for Disaster

Reduction.

For the meaningful and continuous news reports, it is also crucial that not only field journalists but also news managers understand the importance of DRR and the role of media in DRR reporting because the news managers are the ones who decide which news to be reported. On 20th July, SEEDS Asia organized a news managers' round table on DRR inviting senior editors from Bangladesh's leading media organizations. Japan's disaster reporting was introduced by SEEDS Asia, and the floor discussed the importance of providing accurate information, including DRR aspects into reporting, and treating disaster reporting not as a sensational reporting for the moment but as a continuous reporting. The recommendations agreed at the wrap up session include starting to have a disaster beat in newsrooms, and media's playing a role to put pressure so that DRR perspective would be reflected into a policy.



New Managers' Roundtable on DRR



India

Project for Participatory Community Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi, funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA)

SEEDS Asia has been promoting a model of community-based Disaster Risk Reduction (DRR) by establishing five 'Climate Schools (CS)' as focal points of DRR/climate change education, and five 'Citizen Forums (CF)' in each CS area. The activities carried out in July and August 2017 were as follows.

1) ToT on Town-watching Training

Town-watching training (TW training) aims to prepare for disasters in the community by tracing the history of disasters at schools and neighbourhood, finding evacuation places for the cases of emergency and making an action plan and carrying it out. Last July, the SEEDS Asia conducted its Training of Trainers (ToT) in order for CS teachers to become TW training trainers. This year, these teachers as trainers provide ToT to fifteen teachers of their three outreach schools.

ToT was carried out at Sri Agrasen Kanya Inter College on 21th July and at Aryan International School on 31st July. In spite of the busiest time immediately after the commencement of a new academic term, the principals understood the importance of training and encouraged the teachers to find time between classes to attend the training.

"I believe that my students will be interested in this training and so I want to conduct it soon," "What I learned should be shared not only with my students but also with those who suffered from the last flood. Let' s organise a training in February before their plantation starts," they commented. These teachers will conduct the training for sixty students at their respective schools.



Work in Library



Town-watching Training (ToT)

## 2 ) Prahari Editorial Meeting

On 16th July, a meeting was organised to discuss the progress and upcoming events of the project with CS representative teachers. The student newspaper, Prahari, in particular, required them to actively participate in the process of developing its website by bringing innovative ideas, examining them in detail and collaborating with each other. This first meeting marked the successful start with various opinions and interesting discussions.

## 3 ) Exercise books in progress

The project has been developing two kinds of exercise books. Banaras Hindu University is in charge of climate and weather while SEEDS Asia works on DRR. The exercise books will consist of thirty year disaster history in Varanasi city, Sadhus' observation on Ganges River and a weather diary. For the part of history, the Varanasi team collected data from newspapers in English and Hindi in libraries, archive centres and newspaper companies for two months in June and July.



## Myanmar

### USAID MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management

#### Completion of the Project

MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management was successfully completed in the end of July, 2017 which had been funded by USAID. The project was implemented by six organizations: UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED/SEEDS Asia and five technical agencies: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA as a consortium members. The aim of the project was to develop capacities on disaster management in wide range of stakeholders though building partnerships. In this project, SEEDS Asia implemented disaster management research and awareness activities in collaboration with project counterpart, Relief and Resettlement Department, Ministry of Social Welfare Relief and Resettlement (RRD), Yangon Technological University (YTU) and Dagon University.

In order to report and reflect the experiences and lessons learnt, final workshop was held on 27th June at Disaster Management Training Centre in Hinthada township. Following the event, "Reflection Workshop" was also held on 20th-21st July in Yangon and the project achievements and challenges were shared among the consortium members.

By taking this opportunity, SEEDS Asia would like to express our sincere appreciation to all supports and contributors for this project!





Final Workshop



Memorandum of Understanding Signing with Naga City



Philippines (Cebu)

JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Support Project on Promotion of School Disaster Risk Reduction and Management in Cebu Province

Memorandum of Understanding Signing with City of Naga and Meeting with Mayors

On 2nd August, the signing ceremony of the Memorandum of Understanding (MoU) between the City Government of Naga, one of the pilot areas of the project, SEEDS Asia and the Department of Education (DepEd) Naga City Division was held in the city hall in order to strengthen the partnership for the promotion of School Disaster Risk Reduction Management. The City Mayor, Hon. Kristine Vanessa T. Chiong, signed the MOU on behalf of the City of Naga, whereas the Schools Division Superintendent, Dr. Senen P. Paulin, signed for DepEd Naga City Division. Witness signatories to the ceremony are: the Officer-In-Charge of Naga City Disaster Risk Reduction Management Office (DRRMO), Hon. Carmelino Cruz; Naga City Division DRRM Coordinator, Mr. Conrado Dejarme Jr.; and Ms. Jennifer Acedillo, the School Head of Uling Elementary School, the nominated pilot school which promotes School Disaster Risk Reduction. The City Mayor has expressed her strong support for the project and requested the close involvement of their DRRM Officer in its implementation. Furthermore, Mayor Hon. Chiong has said that they hope to have the ripple effect of the project on other schools in the City of Naga. SEEDS Asia also met Cebu City Mayor on 28th June, Daanbantayan Municipal Mayor on 21st July, and Carcar City Mayor on 3rd August. SEEDS Asia is also finalizing MoU signings with them to promote the cooperation between education administrations and Disaster Risk Reduction administrations of local government units of pilot areas.

Baseline survey (School Disaster Resilience Assessment)

As part of establishing the baseline data to be referred to in the project, SEEDS Asia conducted a School Disaster Resilience Assessment (SDRA) survey for the whole month of July (3rd -27th July). A total of thirty schools were surveyed from ten pilot areas, three schools each including a pilot school in each area. The SDRA was conducted through an interview with the school heads and school Disaster Risk Reduction and Management focal persons. The questionnaire was designed to assess the level of school's resilience to cope with natural disasters using five dimensions such as the physical condition, human resources, organizational issues, external relationships and natural conditions. Based on the results, SEEDS Asia will make efforts to strengthen good points and solve problems of each area and school.

Fruits of previous project, celebration of National Disaster Consciousness Month

The month of July is the National Disaster Consciousness Month in the Philippines. On 21st July, SEEDS Asia was invited by Daanbantayan Central Elementary School to witness their celebration of the Month. Daanbantayan Central Elementary School was one of the DRR Education Model Schools from the previously concluded project of SEEDS Asia. Students starting from kindergarten to Grade 6 participated in several activities such as DRR speech choir, bucket relay, DRR essay writing, emergency cooking, DRR obstacle course, DRR slogan and poster making. On 4th August, SEEDS Asia was also invited to witness the culminating activity organized by the Department of Education Lapu-Lapu City Division at its auditorium in Celebration of the National Disaster Consciousness Month with the support of the Lapu-Lapu City Government. Total of 750 people including both elementary and high school students from ten different school districts participated in this event. Students competed in contests based on the 21 Disaster Risk and Reduction Education activities introduced by SEEDS Asia in the previous project. This whole-day event was held for the purpose of raising awareness of learners on disaster preparedness.



Celebration of National Disaster Consciousness Month in Lapu-Lapu City

**Japan**

**(1) Central Community Chest of Japan: Kumamoto Earthquake**

Completion of the Project

After the occurrence of Kumamoto Earthquake in April 2016, after directing the on-site survey, SEEDS Asia conducted the assistance activities to Uki City Social Welfare Council (the "Council") that has been working on assistance for the affected people in Uki City where about 700 households had to leave their dear old homes and rebuild their lives. Originally, the activities were planned to end in March 2017, but they were extended to July 2017. This is to report the whole story of the activities.



Building Flower Beds by Temporary Housing Residents

First, the activities started with the support for the system construction for a center for assistance for the affected people to be established by the Council. The Council established and operated "Disaster Volunteer Center" to provide emergency support until May, then "Recovery Support Volunteer Center" focused on reconstruction, and after that "Community Mutual Support Center" entrusted by Uki City in October. Upon restructuring the relevant center, many discussions were made among the Council staff and SEEDS Asia in order to construct the system

for action policy of the relevant center, project plan, and division of roles, etc. SEEDS Asia supported the operation of these centers by adding the necessary procedures, and reviewing the project plan from time to time so as to be able to respond to the needs of the affected people on each phase. In addition, SEEDS Asia assisted in conducting (a) "individual support" by visiting each home, understanding the situation, and introducing to the appropriate agencies where needed and (b) "community support" to promote building relationships to support each other among residents by organizing tea parties.

Moreover, SEEDS Asia dispatched an expert with the experience on the reconstruction assistance in Kesennuma. This person shared know-how on the support activity site by the on-the-job training method to the counselor who are obsessed with a lot of questions and anxiety because of the first time experience. The counselor said "The expert taught me what needs to be considered and what needs to be careful about at counseling, told me the story about prospect for the future, and talked about mental health of counselors. This was very useful opportunity for me".

Also, SEEDS Asia helped building various networks such as collaborating to hold "Life Reconstruction Assistance Coordination Meeting" regularly in order to cooperate with the welfare support by the Council, the reconstruction project and health care support by government, and other activities by NPOs, etc., and dispatching volunteers in cooperation with junior high schools in Uki City and Kumamoto University.

SEEDS Asia would like to thank for enormous cooperation in many ways in the activities for the assistance for the affected people by Kumamoto Earthquake, and ask for continuous supports for the affected people by Kumamoto Earthquake in the future.



SEEDS Asia Staff with Community Mutual Support Center Staffs

## (2) Joint Project with Tamba City for Community Development

### DRR Lecture for Junior High School Students

On 7th July, SEEDS Asia delivered a lecture at Ichijima Junior High School with the theme of "DRR measures that can be taken by junior high school students," telling that it is often said that junior high school students are the most reliable self-help and mutual help actors in time of disasters, especially in aging communities.

In the lecture, an episode was introduced to the students where a ten-year-old British girl encountered the Sumatra Earthquake and tsunami while she was on holidays in Thailand. This episode well explains that even children can save many lives by having acquired proper knowledge about hazards/disasters, and involve others when evacuating.

The students listened to the lecture very carefully in an extremely hot weather. Their feedback to the lecture was brilliant, such as "I never expected an earthquake to occur in Tamba City, but learned that it is just that the possibility is very low. I should start being prepared." and "I want to be ready to involve others and help elderly in evacuation, in case any disaster occurs."

### Discussion on Audiovisual DRR Education Material

On 13rd July and 23rd August, seven appointed schools gathered to discuss the initial draft of the audiovisual DRR education material exclusively for Tamba City, based on the City's experience of being hit by the torrential rain in 2014.

In this project, the first year's output was "Kokoro Tsunagu (Bridging Hearts)", the paper medium DRR education materials. Following those materials is an audiovisual material to complement the effectiveness of "Kokoro Tsunagu". The two meetings were held to discuss what kind of video materials would be useful in teaching DRR with "Kokoro Tsunagu".

Teachers from both elementary (each from lower grades and upper grades) and junior high school discussed it over and fruitful opinions were exchanged. Some of which are "We need an interview of the episodes that community members helped each other during the disaster in 2014" and "The video should feature people who are making efforts to vitalize home spirit, so that children will have more thoughts about it."

Results of those discussions will be reflected in the scenario for video shooting.



Discussion over the Audiovisual Material

### Participation in Commemoration Event of Tamba

The weekend of 26th August was the days of the commemoration event of the 2014 disaster. One of the programs was the "Forest Walk for Recovery" which included visiting the biggest sediment-controlling dams constructed in Hyogo prefecture after the disaster, and climbing up a beautifully managed forest with the community leader of one of the affected areas. A strong message of the leader impressed the participants - "Those forests have been neglected for a long time due to the declining wood price. We would like to grow healthy forests with a view of 400 years ahead. For this purpose, we shall involve the young, and our activities must not be obtrusive but enjoyable."

In the afternoon, SEEDS Asia was in charge of a booth where participating kids were able to learn about disasters/hazards and make button badges of the City's official mascot character.



Explaining about Disasterst to Kids

## (3) JICA Training:

### Comprehensive Disaster Risk Reduction (A)

From 25th July to 25th August 2017, entrusted by JICA Kansai, SEEDS Asia conducted JICA Training "Comprehensive Disaster Risk Reduction (A)". Nine people involved in disaster management in city, state, and federation level in Brazil participated in this training. The trainees listened to the lectures regarding the role of Japan

as a country and local authorities, and coordination with private sector and residents, and also visited Tamba and Hiroshima to learn about the sediment disaster measures, which is a serious issue in Brazil, and reconstruction efforts.



Lecture at Cabinet Office

It was impressive to see that all trainees enthusiastically listened to all lectures and asked questions so as to utilize what they learned as much as possible in DRR measures in their homeland. They commented that they noticed that Japan puts importance on preparation, private organizations such as companies and NPOs are also prepared with high consciousness, and self-help mutual help spirit is spread among residents, and that they learned a lot. This became a valuable opportunity for those officers in charge of DRR from city level to country level gathered and discussed for about a month. It can be expected that the coordination seen in this training will develop further after they returned to their home country.



Visit of Sediment Controlling Dam at Hiroshima Sediment Disaster Affected Area

#### (4) Dispatch of Lecturers to Conduct DRR Class or Event

SEEDS Asia dispatched staff members as lecturers to conduct DRR training or classes in a wide range of methods and contents on the requests from any organizations such as schools, municipalities, residential communities and private sectors. In July and August 2017, our staff members provided the following lectures.

##### [Lecture at Kumamoto University](#) [\(in Kumamoto Prefecture\)](#)

On 12th July, at the class on volunteer theory at Kumamoto

University, a SEEDS Asia staff member delivered a lecture as a guest speaker and introduced about the activities of SEEDS Asia and its assistance for Kumamoto affected people on the theme of "International Cooperation \* Disaster Prevention \* Volunteer". Some feedbacks from those 145 students listened to the lecture are "Although I thought it requires certain level of preparedness in order to work as a volunteer, I learned that one can start doing something close to oneself. Now I think I can do something." "I learned that a wide perspective is needed for reconstruction assistance." "It was interesting to listen to the experiences in various countries."

In general, SEEDS Asia dispatches staff members to organizations upon request, to give lectures (also with games or picture-card shows) with wide range of targets and topics which relates to our activities. If you are interested in inviting our lecturers on DRR, please kindly contact: SEEDS Asia Headquarters (rep@seedsasia.org).



Lecture at Kumamoto University

### Announcements from Headquarters

[Executive Director of SEEDS Asia contributed a chapter to "The Way of Global Cooperation concerning Disaster Risk Reduction"](#)

Ms. Yuko Nakagawa, Executive Director of SEEDS Asia, contributed Chapter 9 'Disaster Risk Reduction Education in Asia' to the book "The Way of Global Cooperation concerning Disaster Risk Reduction – global standard and actual on-site condition" editorial supervision by Makoto Iokibe, edited by Yutaka Katayama, published on 30th July 2017 by Minerva Shobo (Kyoto) (pp. 167-184).

